

令和7年度 学校評価書

令和8年2月10日

- 1 学校教育目標
- 2 経営の基本方針

よく学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成
 「伸びる」を合い言葉に、確かな教育活動を実践し、確かな学力の定着を図るとともに、保護者との信頼の絆を強め安全安心な学校づくりを推進する。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価(1~4)			○考察 ●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	いじめや不登校の兆しを早期に把握するとともに、児童や保護者の思いに寄り添い、適切な相談や支援・指導に努めている。	3.48	3.45	3.09	○いじめについては、教職員で「どこにでも起こりうる」ことを共通理解し早期発見と積極的認知に努めた。いじめを認知した場合には、生徒指導主事を中心として組織的な対応に努め、早期解決を図った。今後もいじめを生まない風土の醸成に努める。 ○「えひめいじめSTOP!デイplus」のリモート校として、6年生が事前授業や当日のライブ授業に参加することで、「いじめをなくすために自分ができることは何か」を自分事として考えることができた。 ○関係機関を交えたケース会議を行うなど、不登校傾向児童への対応を組織的にを行い、東温市教育支援教室「ひだまり」から学校に登校するなど、少しずつ効果が現れている。 ○家庭と連携してSNS上でのトラブルを把握し、早期発見、早期解決に努めることができた。 ●基本的な生活習慣の定着を図るには家庭の協力が欠かせない。今後も毎月行っている「健康マスターチェック」での振り返りや保健だよりでの結果のお知らせ等で家庭への啓発を図る。 ○教員の授業方向を図るために、教員一人一人がテーマを決めて授業実践を行う「一人一授業」に取り組んだ。互いの授業を参観し協議を行う中で、自分の授業を振り返ったり、他の教員の実践から学びを得たりする中で、チームで学び合い向上していこうとする教員集団づくりを行うことができた。 ○「学びのチェックリスト10」を活用し、望ましい学習習慣について児童に意識付けることで学習習慣が定着してきた。教師も分かる授業づくりの視点で振り返り、授業改善につながっている。 ○家庭学習「チャレンジ学習」の手引きを作成し、家庭学習のルールや内容を提示した。工夫しているノートのコピーを掲示することで家庭学習への意欲化が図られ、進んで取り組む児童が増えつつある。 ●「基礎・基本の定着」に関して、長期休業後に全学年で漢字書き取りテストを行うなど、基礎的・基本的な内容の定着について実態をより詳しく把握した結果、教員の評価は昨年度より0.34ポイント低下している。漢字テストを継続して実施し、定着を図る。	・教育支援教室「ひだまり」を活用できていることが高く評価できる。また、「えひめいじめSTOP!デイplus」のリモート校として学べたことは良かった。 ・他の領域に比べるとやや評価が低い。特に生活習慣に関する保護者の評価が低くなっており、ネットやスマートフォン利用も含めた家庭生活に関係する課題が顕在化していると感じる。家庭への啓発を根気強く続けるとともに、家庭の責任を自覚してもらうことも必要ではないか。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」については、保護者の協力をもっとお願いすべきではないか。
	基本的生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」や歯磨きの習慣化や身の回りの整頓など、基本的生活習慣が身に付くよう指導に取り組んでいる。	3.48	3.37	2.99		
	いじめをしない・許さない人間づくり	いじめを身近な問題と捉え、自分の行動を振り返るとともに、相手の立場に立った言動のできる児童の育成に努めている。	3.48	3.07	3.41		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	「eスタ」「EILS」の活用や学習の振り返りの充実を図り、基礎的・基本的な技能や知識の定着を図っている。	3.04	3.47	3.17	○今年度も10月に人権・同和教育に視点を当てた授業、性に関する授業を参観日で公開し、人権の意義や内容、性に関する内容について発達段階に応じて指導を行った。継続して指導を行うことで、児童に人権を大切にしている態度が育ってきている。 ○支持的な雰囲気のある学級、学校づくりを教員一人一人が意識し、委員会活動や学級活動を充実・工夫することで、児童が自己有用感を育むことができるよう取り組んだ。 ○今年度は学校外の施設を利用し水泳学習を行った。実施回数は3回と限られた時間だったが、施設の使用法や学習内容を工夫し、水泳学習の楽しさを児童に実感させることができた。来年度以降、実施回数や時間を増やして水泳学習が実施できるよう教育委員会と連携していく。 ○校内マラソン大会は河川敷が工事中のため運動場での実施になった。そのため業間マラソンの開始時期を早め、児童に目標を持って取り組ませた。その結果、多くの児童が目標を持ち、最後まで粘り強く走ることができた。 ●何気ない言動から友達を傷つけてしまう場面は少なからず見られる。教育活動全体を通して、一人一人の良さや違いを認め合う活動を引き続き実践していく。 ●「食育の推進」の評価が昨年度より低下している。栄養教諭と学級担任の連携を密にして、東温市ならではの取組を食育だよりやホームページ等で情報発信し、家庭との連携を図る。	・先生方のご努力に感謝している。 ・「学びのチェックリスト10」の取り組みは成果を上げているので、引き続き実践するとともに、児童それぞれの個性を伸ばす教育も継続してほしい。 ・良い取り組みは今後も続けていただきたい。また、良いことは他校とも情報交換しながら取り入れ相互に高め合うと、良さが効率良く広がるのではないか。 ・全国学力・学習状況調査では、愛媛県は全国平均くらいなので、児童がより主体的に学べる工夫をお願いしたい。
	家庭学習の充実	学年の発達段階に応じた家庭学習が行えるよう、学習の内容や方法、時間などについて具体的に指導するなど、学習習慣の育成に努めている。	3.32	3.25	3.00		
	伝え合う力の育成	授業において対話活動の場を効果的に設定することにより、自分の考えを持ち、他者と豊かにかかわり合い、伝え合う力の育成に努めている。	3.48	3.24	3.11		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間はもとより、全教育活動を通して、主体的に考え、自分自身や他者と対話しながら、よりよく生きることについて考える機会をつくるなど、道徳教育の充実を努めている。	3.54	3.39	3.26	○今年度も10月に人権・同和教育に視点を当てた授業、性に関する授業を参観日で公開し、人権の意義や内容、性に関する内容について発達段階に応じて指導を行った。継続して指導を行うことで、児童に人権を大切にしている態度が育ってきている。 ○支持的な雰囲気のある学級、学校づくりを教員一人一人が意識し、委員会活動や学級活動を充実・工夫することで、児童が自己有用感を育むことができるよう取り組んだ。 ○今年度は学校外の施設を利用し水泳学習を行った。実施回数は3回と限られた時間だったが、施設の使用法や学習内容を工夫し、水泳学習の楽しさを児童に実感させることができた。来年度以降、実施回数や時間を増やして水泳学習が実施できるよう教育委員会と連携していく。 ○校内マラソン大会は河川敷が工事中のため運動場での実施になった。そのため業間マラソンの開始時期を早め、児童に目標を持って取り組ませた。その結果、多くの児童が目標を持ち、最後まで粘り強く走ることができた。 ●何気ない言動から友達を傷つけてしまう場面は少なからず見られる。教育活動全体を通して、一人一人の良さや違いを認め合う活動を引き続き実践していく。 ●「食育の推進」の評価が昨年度より低下している。栄養教諭と学級担任の連携を密にして、東温市ならではの取組を食育だよりやホームページ等で情報発信し、家庭との連携を図る。	・「豊かな心、健やかな体を育てる教育」については、概ね良好であると評価できる。 ・ねらいを明確にして学習や行事等を行うとともに、学校全体で育てたい児童の姿を共通理解しながら、心豊かでたくましい児童を育てていただきたい。 ・低学年は面白半分言葉の意味を深く考えずに使ってしまう傾向がある。言葉を大切にすることを継続して行っていただきたい。 ・水泳学習が3回は少ないと思うので、来年度以降回数の改善に期待する。 ・来年度はマラソン大会を河川敷で実施するのはどうか。 ・東温市の食育の取組のすばらしさを、児童が実感できる取組をしていただきたい。
	仲間づくり 集団づくり	互いに助け合い、よさを認め合うような支持的風土を培うことにより、認め合い、励まし合い、高め合う仲間づくりに努めている。	3.61	3.68	3.30		
	健康づくり 体力づくり	体育の時間を充実させたり外遊びを奨励したりすることで体力の保持増進に努めている。	3.38	3.31	3.29		
	粘り強くやり通す態度の育成	活動のねらいを明確にし、自分のめあてをもたせ、最後まで粘り強くやり通す態度の育成に努めている。	3.74	3.67	3.07		
	食育の推進	栄養教諭と連携して、日々の給食指導を充実させ、「食」についての学習に取り組み、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるように努めている。	3.18	3.44	3.12		
特別支援教育	特別支援教育の充実	教育相談やケース会議等を実施し、特別支援教育の視点に立って、児童一人一人の特性やニーズを多面的に把握することに努めている。	3.54	3.62	3.04	○学級担任と通級指導担当者、特別支援教育コーディネーターが連携し、児童の教育的ニーズの把握に努め、個に応じた指導を行い効果を高めている。 ○東温市特別支援教育アドバイザーを招いて校内研修を行い、教職員の研修を深め指導に生かすことができた。	・個に応じた支援に尽力してくださり大変ありがたい。今後も子供の気持ちに寄り添い安心して学校生活を送れるようにしていただきたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して安全に登下校をさせることなど、安全指導の充実を図っている。	3.46	3.58	3.44	○学校運営協議会で「通学路の危険箇所」について熟議を行い、学校が気付かなかった危険箇所を把握し指導に生かすことができた。 ○登下校については、地域の方・保護者の協力を得て、安全に登下校ができている。下校時に、道路に広がることもあり、今後指導に努めていく。 ○児童に自転車ヘルメットの着用の意識が高まっており、保護者の協力の下、ほとんどの児童がヘルメットを着用している。 ○避難訓練を通して、児童の地震や火災に関する安全への意識を高めることができた。3学期には不審者対応の避難訓練を行い、不審者が侵入したときの教職員・児童の対応の仕方について訓練を行う予定。 ○毎月安全点検を確実にし、危険箇所の把握と修繕に務めた。今年度配置された学校補助員を活用して設備の修繕を行った。 ●児童への交通安全については、児童への更なる指導と啓発のほか、家庭・地域との情報交換を今後も継続していく。また、避難訓練の在り方についても改善、検討していく。	・命を守ることに児童の意識が高められていることが評価に表れている。自他の命を守る、自分も周りの人も大切にすることを児童の育成を今後も願いたい。 ・不審者が侵入したときの訓練を行うことは良い取り組みである。 ・コストコの店舗に向けて、児童への交通安全意識の啓発を、学校・家庭・地域がより一層連携して行っていく必要がある。 ・学校の西側にあるイチョウの木が電線にかかっているため、予算等があると思うが早目の樹木選定をお願いしたい。
	防災教育の充実	教職員研修や避難訓練、学級活動での指導等による防災教育を進め、災害時に自ら判断し行動できる児童の育成を図っている。	3.35	3.75	3.39		
	安全意識の高揚と自己管理能力の育成	児童や保護者にヘルメットの着用をはじめとする交通安全について啓発し、交通事故の防止に努めている。	3.42	3.87	3.81		
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.48	3.67	3.28		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学習のねらいに即して、地域の人材や専門家、協力機関等を積極的に活用し、広がりや深まりのある学びを目指した指導の充実を努めている。	3.16		3.20	○運動会や校内音楽会等の行事で、準備や駐車場の交通整理等で保護者の協力を得ることができた。 ○3、4、5年生の総合的な学習の時間で地域の方の協力を得て「盆踊り」「スポーツとインクルージョン」「正月飾り」の活動を行い、実際に体験することで得られる深い学びにつながった。 ○長期休業中の飼育・灌水に多数の保護者に協力いただき、教職員の負担軽減につながった。 ○学校からのお知らせや保護者の欠席連絡にtetoruを活用することで、朝の電話対応が軽減されるなど業務改善につながった。	・地域の力、保護者の協力を得ることが具体的に行われていることがすばらしい。 ・毎年「盆踊り」で児童と交流することを楽しみにしている。 ・欠席連絡の負担が軽減されていることが評価できる。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等についてホームページや学校だより等を活用して情報の共有化に努めている。	3.48	3.50	3.15		
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	学年の発達段階に応じて、地域の人・自然・文化を生かした「よしいの」ふるさと学習の推進に努めている。	3.00	3.33	3.09	○2年生の町探検で保護者ボランティアを募集し、児童の安全面での見守りに協力いただいた。3学期は、6年生が行う他校と合同でのキャリア教育や、2年生の「昔の遊び」で地域の方にご協力いただく予定である。 ○運営委員会を中心に、朝の挨拶運動を推進し、校内では気持ちのよい挨拶をする児童が増えている。また、会釈ができる児童も増えてきている。 ○様々な委員会で全校を巻き込んだイベントを企画し、積極的に取り組む意欲や態度が高まっている。 ●登下校中に出会った地域の方や保護者への挨拶が課題であるとのご意見があった。地域での挨拶について、今後も繰り返し児童に指導・啓発し、家庭での挨拶についても保護者にも啓発していく。 ●地域の人・自然・文化をまだ十分に活用できていない。年間を見通してふるさと学習が実践できるように各学年の年間指導計画を見直していく。	・他校と合同でキャリア教育を行うことや、昔の遊びで地域の方と交流することなど「ふるさと学習」は良い取組である。 ・児童が自分で頑張った、自分たちでやったと思える充実感、達成感を感じることができるよう、しなげをしたり支援をしたりしながら、子供の主体性を大切に伸ばしていただきたい。 ・登校時の児童の挨拶に差が見られるが、全員が良い挨拶ができるようになるのは難しいのではないかと。 ・保護者の挨拶にも差が見られる。
	挨拶運動	全教育活動を通して、気持ちのよい挨拶や会釈、返事の定着を図っている。	3.25	3.65	3.04		
	チャレンジする精神の育成	運動会等の学校行事や委員会活動等、何事にも積極的に取り組もうとする児童の育成に努めている。	3.73	3.64	3.31		
施設・設備の充実	ICTの有効活用	ICTを効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、児童一人一人の特性に応じた学習指導の充実を図り、児童が主体的に学ぶ環境を整えるよう努めている。	3.38	3.72	3.20	○デジタル教科書やタブレット端末、黒板に投影できるプロジェクターを活用し、より分かりやすい授業に努めている。1人1台端末を学習の中で効果的に活用することで、考えや振り返りの交流に役立ち、主体的に学ぶ態度の育成することができた。 ●1人1台端末を学習以外の目的に使用している児童には、ルールを守って使用するように引き続き指導していただきたい。	・ICTの活用は有効で必要なことであり大いに推進してほしいが、課題と捉えられている情報利用の留意点については、繰り返し指導する必要がある。 ・1人1台端末を学習以外に使用している児童には、ルールを守って使用するように引き続き指導していただきたい。
	学習・生活環境充実への取組	校内・教室における作品の掲示や展示を工夫したり、学習用具の整理・整頓を図ったりすることにより、児童一人一人の思いや努力を大切にしたい潤いのある環境づくりに努めている。	3.54	3.57	3.37		